

# 出雲・隠岐海域漁場保全調査

(漁場保全対策推進事業)

山根恭道・石田健次

## 1 研究目的

水産生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、八束郡鹿島町および隠岐郡西ノ島町沿岸域において水質、生物のモニタリング調査を実施し、良好な漁場環境を維持する対策を検討する。なお、調査の詳細は「平成 11 年度漁場保全対策推進事業調査報告書(海面)」に報告した。

## 2 研究方法

調査方法の概要は下表の通りである。

水質調査		調査地点	調査回数	調査項目、内容
		鹿島町5点 西ノ島町7点	隔月	水温・塩分・DO(0, 2.5, 5, 10, 15, 20, 30, 40, 底から2m)および水色、透明度
生物モニタ リング調査	藻場調査	鹿島町12点 西ノ島町10点	6, 8月 6, 8月	藻場面積および、生育密度を5段階で評価
	底生生物 調査	鹿島町5点 西ノ島町6点	6, 8月	底泥の温度、粒度組成、COD、TS、底生生物の個体数・湿重量・種別または類別分類。

## 3 研究結果

### (1) 水質調査

透明度は鹿島町では 7.0~16.0m、西ノ島町では 6.0~22m、水温は鹿島町では 12.7~25.9、西ノ島町では 12.0~26.4 であった。また、塩分は鹿島町では 31.23~34.77、西ノ島町では 32.01~35.30、DO は鹿島町では 6.90~10.41mg/l、西ノ島町では 6.02~11.73mg/l であった。

### (2) 生物モニタリング調査

鹿島町では多年生大型褐藻類のクロメ場 12.5ha(水深 1.5~15m)を観察し、その結果 6月が 3~5点、8月が 2~5点、平均がそれぞれ 3.4点と 3.5点であった。西ノ島町ではガラモ場 0.5ha(水深 2~7m)を観察し、6月が 3~5点、8月が 2~5点、平均がそれぞれ 4.1点、2.9点であった。

鹿島町では、COD の値は 6月が 1.5~5.2mg/g 乾泥、8月が 1.9~4.8mg/g 乾泥であり、TS は両月とも ND であった。西ノ島町では、COD の値は 6月が 3.1~5.4mg/g 乾泥、8月が 1.9~4.8mg/g 乾泥であり、TS の値は両月とも ND であった。

鹿島町では S M採泥器 1回当たりで採取された底生動物の個体数は 5地点の合計で 6月が 246 個体、8月が 162 個体で、1g 未満のものの湿重量は 6月が 3.44g、8月が 1.14g であった。類別の構成割合については、6月に St.1 と St.5 で出現個対数が多くその主体は多毛類で全測点での出現割合は 24.7~75.3%を占めた。多毛類以外の出現種に付いては St.1 でヨコエビが St.4 でクモヒトデ類が高い割合を示した。8月は St. 4 以外は 6月に比べ出現個対数は少なく特に多毛類の減少が目立った。St.4 で増加した原因は *phoronidae*(ホウキムシ科)が多数採取されたためである。

西ノ島町では底生動物の個体数は 6地点の合計で 6月が 513 個体、8月が 273 個体であった。1g 未満のものの湿重量は 6月が 5.2g、8月が 1.8g であった。類別の構成割合については両月とも多毛類が多数採取され、60~91%を占めていた。